

平成20年度 人材育成連絡会 講座関係実施報告

<参考>

項目	講座名	主催者	従事職員	場所	対象者	日時	参加人数	講師等	内容	効果と課題																																					
ヘルパー養成講座	視覚障害者のガイド(基礎編)	人材育成連絡会	やなぎくぼ区立身障施設職員	障害者福祉会館	ヘルパー2級または視覚障害者支援を目指している人	7月13日(日)	15名	東京都盲人福祉協会歩行訓練指導員	講義及び実技を通して視覚障害者へのガイドヘルプの基礎を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・比較的に参加希望者が多い。 ・資格取得のための講座ではないので、受講者がヘルパーの仕事に結びにくく資格ヘルパーが増えることにつながらない。 ・アイプラザで行っている同様の研修がある。 																																					
	視覚障害者のガイド(応用編)					8月24日(日)	21名		講義及びケーススタディを通して視覚障害者へのガイドヘルプの応用を学ぶ		出張講座	阿佐ヶ谷商店会出張講座	人材育成連絡会	やなぎくぼ区立施設職員	阿佐ヶ谷ふるさと館	阿佐ヶ谷商店街振興組合員	11月4日(火)	19名	やなぎくぼピア相談員	当事者の話およびロールプレイを通じて障害者へのコミュニケーション理解を深める	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年のサミットに引き続きの出張研修だったが好評で今後もいろいろな形で続けていきたい。 ・人材育成よりも啓発的な要素が強い。 ・昨年に引き続きでノウハウの蓄積が感じられた。さらに、今後に向けてはこれらの蓄積を生かしていく必要がある。 ・PRをもっと行う必要があった。パブリシティーの活用。 ⇒次年度商店会連合会の婦人部での実施が予定されている。 	2月3日(火)	23名	連絡会担当職員	演習を通してコミュニケーションについて理解を深める	3月3日(火)	17名	どんまい福祉工房職員	「地域就労と商店街」について作業所職員の話聞く	スポーツ振興財団出張講座	人材育成連絡会	すだち区立施設職員	荻窪体育館集会室	スポーツ振興財団職員	12月11日(木)	25名	すだち・やなぎくぼスタッフ中途失調難聴者の会当事者(手話通訳者)	基礎的な障害理解当事者の声を聞くことで対応の基礎を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も実施希望あり。 ・資料を前年度のものなどを利用し業務の簡素化を図った。 ・実際にスポーツ施設を余暇に利用している障害者の方は多く、直接対応する職員への研修は効果が高い。 ・当講習会終了後、全体育館に「筆談ボード」が設置される。 ・終了後、車椅子や展示ブロック、施設のバリアフリーの点検が行われた体育館があった。 ・終了後講座の内容を職場に報告したり、職場内で対応について話し合いが行われた体育館もあった。 ・ 	2月26日(木)	25名	阿佐ヶ谷生活園利用者オブリ利用者		事業所育成	ホームヘルプ・ガイドヘルプ事業者のリスクマネジメント	杉並区(人材育成連絡会)	オブリ職員策課職員
出張講座	阿佐ヶ谷商店会出張講座	人材育成連絡会	やなぎくぼ区立施設職員	阿佐ヶ谷ふるさと館	阿佐ヶ谷商店街振興組合員	11月4日(火)	19名	やなぎくぼピア相談員	当事者の話およびロールプレイを通じて障害者へのコミュニケーション理解を深める	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年のサミットに引き続きの出張研修だったが好評で今後もいろいろな形で続けていきたい。 ・人材育成よりも啓発的な要素が強い。 ・昨年に引き続きでノウハウの蓄積が感じられた。さらに、今後に向けてはこれらの蓄積を生かしていく必要がある。 ・PRをもっと行う必要があった。パブリシティーの活用。 ⇒次年度商店会連合会の婦人部での実施が予定されている。 																																					
						2月3日(火)	23名	連絡会担当職員	演習を通してコミュニケーションについて理解を深める																																						
						3月3日(火)	17名	どんまい福祉工房職員	「地域就労と商店街」について作業所職員の話聞く																																						
	スポーツ振興財団出張講座	人材育成連絡会	すだち区立施設職員	荻窪体育館集会室	スポーツ振興財団職員	12月11日(木)	25名	すだち・やなぎくぼスタッフ中途失調難聴者の会当事者(手話通訳者)	基礎的な障害理解当事者の声を聞くことで対応の基礎を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も実施希望あり。 ・資料を前年度のものなどを利用し業務の簡素化を図った。 ・実際にスポーツ施設を余暇に利用している障害者の方は多く、直接対応する職員への研修は効果が高い。 ・当講習会終了後、全体育館に「筆談ボード」が設置される。 ・終了後、車椅子や展示ブロック、施設のバリアフリーの点検が行われた体育館があった。 ・終了後講座の内容を職場に報告したり、職場内で対応について話し合いが行われた体育館もあった。 ・ 																																					
2月26日(木)	25名	阿佐ヶ谷生活園利用者オブリ利用者																																													
事業所育成	ホームヘルプ・ガイドヘルプ事業者のリスクマネジメント	杉並区(人材育成連絡会)	オブリ職員策課職員	荻窪保健センター	居宅介護事業所	12月24日(水)	41名	東京海上日動火災社員の方	保険会社職員よりリスクマネジメントについて話しを聞くことにより各事業所の危機管理意識を高める	<ul style="list-style-type: none"> ・リスクマネジメントの言葉の理解も良くわからない事業所もあり、事業所の意識の低さがわかる。今後必要。 ・現場のヘルパー向けの研修も必要。 ・個別の支援計画も立てられていない事業所もある。今後必要。 																																					

平成20年度 人材育成連絡会その他の事業実施報告

<参考>

事業名	目的	実施者	内容	効果	課題
体験研修の受け入れ	事業所のヘルパーを対象に障害者施設での体験研修の受け入れを行い、障害のある方の理解を深める支援を行う	区立施設 (すぎのき・こすもす・なのはな・なでしこ)すだちの里	受け入れるにあたっての様式の整備や手順など、条件整備を行った。パンフレットを作成し事業所へ情報を提供した。	1名 ・利用した人数は一名だったが、事業所から希望が出た時に受け入れできる条件が整っていることは大事。	・事業所の現在のニーズにっていない。 ・参加することのメリットが目に見えない形でない。区の認定制度のようなものがあるといいのか。 ・ヘルパーに必要な経験が施設で得られるのか。 ・事業所の事例検討会には夜間30名近く集まっている。共有したい気持はある。
人材育成上の事業所ニーズの把握	人材育成を効果的に行うにあたり事業所、ヘルパーのニーズを探る	(協力:すだち)	杉並区居宅・外出介護事業者協議会が独自のアンケートを作成するにあたり、その世話役を行っていたすだちの協力により、人材育成関連の設問を入れてもらう。	・事業所の人材育成以外のニーズを聞くことができた。	・事業所へのアンケートからは「育成」の前段の人材の発掘への要望がひっ迫して感じられた。人材がいない。 ・人材を発掘し事業所に結びつけるようなシステム作りが区に求められている。 合同面接会や養成学校入学への補助 ・事業所のニーズと直接支援にあたるヘルパーのニーズは違う。ヘルパーのニーズを知る必要がある。
	重度訪問介護事業所への聞き取りを行い専門的な育成上のニーズを探る	区立身障施設職員	施策課のピックアップした現在杉並区内で重度訪問介護事業を行っている事業所に電話で聞き取りを行う。		・重度のケースは個別性が高く、講座のようなものではなく個別な情報収集が必要。 ・必要な知識が専門的で人材育成で担う内容ではない。
参考(居宅介護事業所の実践検討会)	事業所間のネットワーク作り 事例検討を通して介護者のスキルアップを図る	3支援センター	2ヶ月に一回程度の実施を予定	23名 15事業所参加	